

寒川町立旭小学校

研究テーマ：主体的・協働的に学ぶ子どもの育成～ICTを活用して～

1 実践の目的

昨年度、児童の実態より、特に力を入れて育てていきたい要素として「主体性」と「協働性」が浮かび上がった。その力を育てていくために、ICTの活用が効果的であると考え、「主体的・協働的に学ぶ子どもの育成～ICTを活用して～」を研究テーマに設定し、研究を進めることになった。今年度は特定の教科に限定せず、主体的・協働的な学習を目指し、児童の学びが深まるような授業を研究していくこととした。

2 実践の内容

(1) 研究授業の概要

各学年1回ずつ研究授業を行った。

【1 学期】

2年 算数科「たし算とひき算の図～算数クイズを作ろう！～」

ロイロノートを使用して、テープ図を用いて加法や減法の問題を作る活動を行った。まず、紙媒体でじっくりと問題を考え、その後ロイロノートで他者が考えた問題に触れて考えを深める時間をとった。最終的に、再び自分で考える時間を設けることで、他者の考えを取り入れながら問題作成を行うことができた。

4年 音楽科「いろいろなリズムを感じ取ろう」

言葉でリズムアンサンブルをつくり、演奏する活動を行った。4文字の言葉「おまつり」をもとにした3種類のリズムパターン（反復・呼びかけとこたえ・音の重

なり）を使い、8小節の音楽づくりをした。タブレットを2人で1台操作させ、ペアで共有しながら取り組むことで協働的な活動が児童の主体性を引き出していた。

【2 学期】

3年「わたしの町のよいところ」

ロイロノートの共有ノートを使用し、友だちの文章を読んで感想を送り合う活動を行った。互いにダイレクトに感想を共有できる利点や、自分のペースで友だちの文章を読むことができる利点があり、児童たちは集中して取り組んでいた。

6年 算数科「データの見方」

クラウドを活用した複線型学習形態を導入し、児童が本時の学ぶ手順や方法などを選び、データを分析し、その結果をもとに結論をまとめる活動を行った。児童が学習形態と学習過程を自己決定し、教師は学習課題の設定のみを行った。学習形態は、一人で学ぶか、友達や教師と学ぶかを自由に選択でき、学習過程においては情報収集から整理・分析、まとめ・表現まで各自のペースで進められた。言語活動の量も活発に行われ、協働的な学習が学びの深化につながっていた。

【3 学期】

1年 国語科「これは、なんでしょう」

ロイロノートの共有ノートを使用して、「これはなんでしょう」というクイズを友だちと相談しながら作成した。共有ノート

を使用することで情報の整理ができ、視覚的に分かりやすくなった。また、タブレットの操作が簡単で、ヒントの並べ替えや色分けも手軽に行うことができた。子どもたちは意欲的に活動に参加していた。

5年 国語科「もう一つの物語」

ロイロノート上で物語の構成パターンを整理しながら物語の展開を考える活動を行った。内容を整理するためのワークシートは3種類用意されており、児童は自分自身が整理しやすいものを選択できるようになっていた。どの児童も主体的に取り組む様子が見られた。

たけのこ級 算数科「のこりのどんぐりはいくつ〜ひきざん」

タブレットを活用して、ひき算の計算を行った。タブレットを使用することで、操作が画面に直接反映され、児童は積極的に学習に取り組むことができた。また、具体物や半具体物の操作から図の操作への移行がスムーズに行われ、学習効率が向上した。

(2) 講演会

平井聡一郎氏を講師に迎え、3回の講演会を開催した。講演会では、

①ICTの活用方法

②協働的・主体的な学びの重要性

ICTを活用しても、協働的・主体的な学びが行われているかを常に疑問視しながら取り組むことが重要。

③問題解決型授業

課題解決のために必要なことを考えることがめあてにつながる。

④協働的な学び

めあてや視点を共有し、自分の意見を言語化する練習が必要。特に低学年からの言語活動の積み重ねが重要等、教えていただいた。

3 実践の成果と課題

研究元年である本年は試行錯誤の1年だったが、どのように進むべきかの方向性が見えてきた1年でもあった。4月当初は、タブレットを使って授業を行う教員よりも、使わずに授業を行う教員の方が多かったように感じていた。しかし、平井先生のご指導の下で研究を進める中、教員のタブレットの活用とアプリケーションの知識の向上から授業の幅が広がった。児童を対象に行った学習アンケートでは、90%の児童がタブレットを使用した学習が好きで、タブレットを使用すると学習が分かりやすくなると回答している。年度当初に掲げた「とにかくタブレットを使ってみよう」という目標は達成できたと言える。また、ICTは学びのツールであるという認識が深まった。これは、本当に主体的・協働的な学習とは何かを考えるきっかけとなった。そして、平井先生から「自己決定できる学びこそ主体的な学びである」と教えていただいた中で、授業デザインの重要性に改めて気付かされた。今後は課題や目的をはっきりさせた授業デザインを行っていく必要がある。

4 今後の展開

タブレットを活用した授業が増えることで、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られ、授業の幅も広がってきた。今後も主体的かつ協働的な学びを実現するためには、具体的にどのようなICTの活用方法が望ましいのか、その学年に適した学習の形を整理することが必要になってくる。また、来年度には教科や領域を絞り、焦点を当てた研究をどのように進めていくかを検討していく。